

2011年 2月18日

## 林原自然科学博物館の今後について（見解）

特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク  
理事長 山西良平

自然史系博物館は、単なる珍しいものを展示する施設ではなく、私たちが生きる地域や地球の歴史を記録して後世に引き継ぐために保存し、そこに隠されたなどを研究によって解き明かし、普及教育活動などの情報発信を通じて広く人々の教養に資するための施設です。アーカイブ・研究教育機関として公益的事業体であり、広く市民の利用に応える公共的な存在であることは、国公立でも企業のメセナで営まれる施設でも本質的な差異はありません。博物館は設置者や来館者だけのものではなく、文明や生命の記録を次世代に伝える装置として社会の共有財産でもあります

林原自然科学博物館（古生物学研究センター・類人猿研究センター）は展示公開施設こそ未完成であったものの、東京都江東区で2002年から2006年まで運営された「Panasonic ダイナソーファクトリー」、2007年から2010年にかけて名古屋・大阪・北九州・仙台・岡山など各地で開催された巡回展「ようこそ!恐竜ラボへ ―化石の謎をときあかす」などの展覧事業で多くの先導的な試みを行ない、展示場での来館者コミュニケーションなど博物館学的にも大きな成果を挙げてきました。それだけでなく、モンゴル科学アカデミーとの共同調査をはじめとする重要な研究を担う中核的機関であり、また重要な学術標本を所蔵する機関でもあります。類人猿研究の面でも京都大学霊長類研究所と連携し、行動生物学や保全、脳科学などの各分野で多くの業績を上げ、教育プログラム開発でもさまざまな試みを実施しています。林原自然科学博物館はこのように、一私企業の研究機関という存在を越え、古生物・類人猿研究分野での自然科学の究明を担い、その成果を社会に還元するための重要な拠点として私たちの社会に貢献してきた存在です。

このたび林原グループが法的整理のもとに置かれたことによって将来の動向が不安視されている林原自然科学博物館につきまして、私たち特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワークは、自然史系博物館および関係者で構成される団体として、専門的見地から下記の2点につきまして関係の皆様方のご理解を賜り、建設的なご判断並びにご努力をお願い申し上げる次第です。

1 林原自然科学博物館の所蔵する標本資料・学術成果・人的資源が社会的に重要な科学的・文化的な資産であると認識され、その公益的機能を最も有効に発揮し得るよう今後の継承のための方策が追求されること。

2 これまでのモンゴル科学アカデミーとの国際交流、その他国内外の研究機関との連携、並びに地域との交流などの実績に鑑み、研究・教育活動の継続あるいはそれらの円滑な継承がなされること。

### 連絡先

西日本自然史系博物館ネットワーク

〒546-0034 大阪府 大阪市東住吉区長居公園 1 番 23 号

大阪市立自然史博物館内 担当 波戸岡清峰

hatooka@mus-nh.city.osaka.jp

Tel. 06-6697-6221

Fax 06-6697-6225